

## 52 主に頸髄損傷者及び視覚障害者の利用者募集活動（訪問）について

自立支援局 総合相談支援部 総合相談課 飯塚真理、  
後藤幸雄、菅原美杉、山田哲史、高橋文孝、鈴木理子、秦明子、会田孝行  
病院 医療相談室 上野久美子、吉田洋美、金子淑子、下重敏子、金川愛

### 1. はじめに

自立支援局では利用者募集活動として平成23年度より関係機関への訪問、事業公開の開催、関係機関会議への参加、郵送などを行っている。特に訪問活動は、関係機関と直接地域等の情報交換が行え、募集活動に有効な情報を得ることが出来ることから力点を置いている。

本稿では、平成27年度から重点方針として取り組みを行った視覚障害者、及び伊東重度障害者センターの統合に伴う頸髄損傷者の利用者確保に向けた訪問活動を中心に、平成27年度から平成28年12月までの訪問活動結果及び効果の報告を行う。

### 2. 方法

頸髄損傷者の募集活動では交通事故等で受傷し急性期病院へ入院する事例が多いことに着目し、受傷（治療終了）から医療から福祉サービスへ速やかに繋ぎ、当センター全体の患者・利用者確保を目的として訪問先の選定を行い、医療相談室と総合相談課と共同での訪問を開始した。

実績として、平成27年度は東京都、埼玉県を中心とした急性期病院、障害者就労支援センター、職安、市区町村等を中心とした197ヶ所、平成28年度は東京都の急性期病院、眼科等を中心とした156ヶ所への訪問を行い、当センター全体の事業内容の周知を主目的として行った。

また、広報以外に自立支援局の利用対象となる頸髄損傷者等の居場所や進路等を把握するための報告書の様式を作成し、得られた情報のデータ化と蓄積を行った。調査項目は、頸髄損傷者及び視覚障害者の有無、機能訓練・養成施設対象者の有無、自立支援局の周知度合や自立支援局を紹介する上での課題、平成28年度には国リハ病院の周知度合、国リハ病院を紹介する上での課題の聞取りを追加した。

### 3. 結果と考察

平成27年度に訪問した急性期病院では、大半の事業所が自立支援局のことを知っていた一方、平成28年度に訪問した急性期病院では、国リハ病院のことを知っている事業所が大半で、自立支援局のことを知っている事業所は少ないことが分かった。そのため、平成28年度訪問では、自立支援局の福祉サービスの概要説明及び当センター内での障害者支援施設の役割に加え、国リハ病院との連携を中心に説明を行っている。今回の周知により、急性期病院等からの紹介・連携に繋がることが期待される。